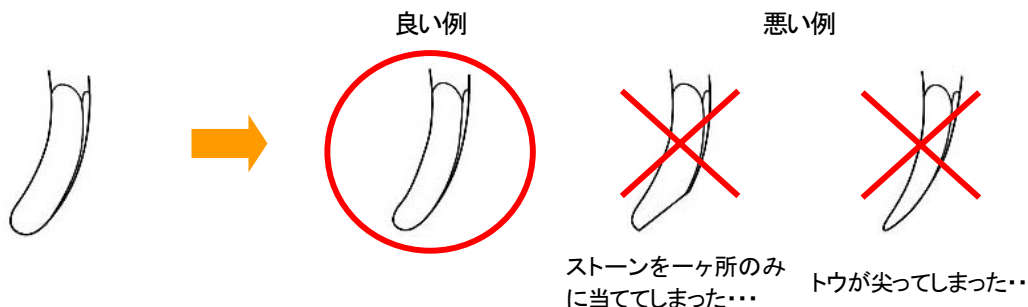


# ハンドインスツルメントを上手にお使いいただくために

## 【快適にお使いになるために】

- 定期的なシャープニングが効果的です。【スケーラー、キュレット等ブレード(刃)のついているもの】

こまめなシャープニングは作業効率を上げ、治療時間の短縮が図れるだけでなく、切れ味の鈍くなった刃に無理な力を加えることによる破折を防ぐことができます。滅菌処置後にシャープニングを行い、保管することをお奨めします。



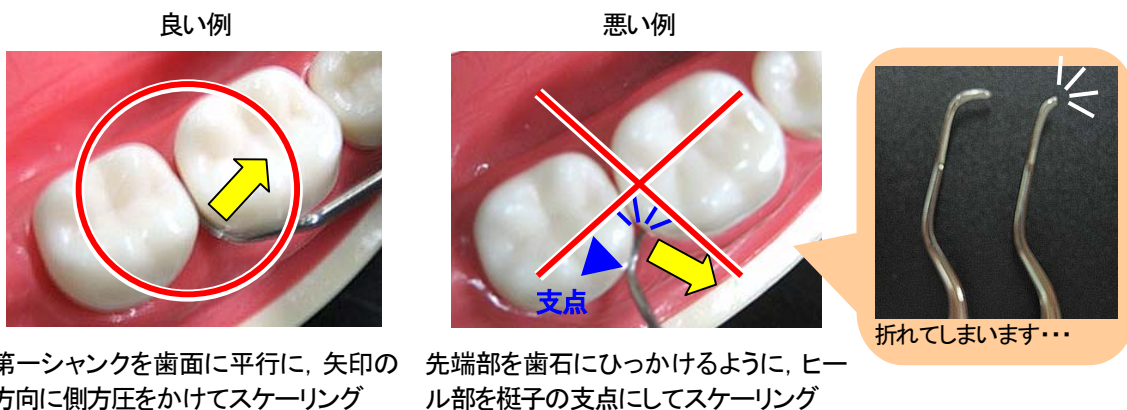
仕上がり状態はテストピースへの食い込み感や、カッティングエッジの形態をルーペで見るなどして確認してください。

※スケーラーにつきましては、原型の8割以下の大きさになりましたら交換してください。

## 【先端の破損を防ぐために】

- 「槌子(てこ)」の力を利用したスケーリングは先端破損に繋がります。【特にグレイシーシリーズ】

隣接面の歯石除去を行う際に、ブレードのかかとを支点にして「槌子」のように動かすと、ヒール部での破損を起こしやすくなります。第1シャンクを歯面に平行にして側方圧をかける、正しいストロークでお使いください。



第一シャンクを歯面に平行に、矢印の方向に側方圧をかけてスケーリング

先端部を歯石にひっかけるように、ヒール部を槌子の支点にしてスケーリング

- 無理な応力をかけると先端が破損します。【インタープロキシマルカーバー】

インタープロキシマルカーバー(IPC)は非常に先端が薄くなっておりますので、無理な角度や力での操作を行いますと先端が破損してしまいます。また、「コンポジットやガラスイオノマーの隣接部形成」以外の用途でのご使用は、破損に繋がる場合がありますのでお避け下さい。

## 【より長くお使いになるために】

### ■ 洗浄が効果を発揮します。

- 汚れが付着したまま滅菌器にかけられますと、「錆」のように汚れが固着し、落ち難くなります。使用後は流水洗浄や洗浄液への浸漬、ブラシ等での清掃により極力汚れを落としてから、滅菌処置を行ってください。

汚れが固着してしまった例



汚れが固着しても、ほとんどの場合、エタノールによる清拭で落とすことができます。上図の汚れも、右図のように清拭で綺麗になります。

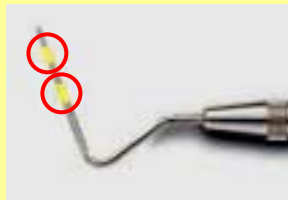


### ■ オートクレーブ滅菌時の、乾燥工程の温度にご注意を。

- ハンドインスツルメントは175°C以上で刃部が劣化する恐れがありますので、滅菌時の温度及び乾燥時の温度をそれ以上にしないようご注意ください。  
(但し！イエロープローブ及びイーグルライト(カラーハンドル)につきましては、140°C以上で変色や変形する恐れがありますのでご注意ください。)



↓ 140°C以上だと、この部分(赤枠内)が変色・変形する恐れがあります ↓



イエロープローブ



イーグルライト(カラーハンドル)